



第104期 中間報告書
2023年4月1日～2023年9月30日

夢から感動へーハートテクノロジー



(証券コード 1890)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
(連絡先) 東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
(返還先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

本報告書は2023年9月末時点での株主の皆様にお送りしております。

開く

濡れている場合は乾かしてから
はがしてください

★ 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第104期第2四半期の概況をご報告申し上げます。

当社グループは、①“守りから攻め”への転換、②“高収益モデル”への転換、③“資本効率経営”への転換を柱とした5ヶ年の中期経営計画（2023年度～2027年度）を策定し、更なるレジリエント企業への進化、成長に向けて取り組んでおります。また、DX推進により生産性向上や働き方改革に努めるほか、“攻め”を支える多様な人財の獲得・育成にも取り組んでおります。

2023年度の各セグメントにおける取り組み状況は次のとおりです。

〔国内土木事業〕

高い競争力を有する本事業においては、事業量の確保及び収益力の強化に向けて、官庁海上工事における大型プロジェクトの確実な受注、また民間及び官庁陸上工事の受注拡大に努めております。成長ドライバーである洋上風力事業においては、将来に向けて人財を育成するとともにケーブル敷設分野を中心とする多様なポジションでの参入に向けて取り組んでおります。

〔国内建築事業〕

市場環境が急激に変化する中でも収益を拡大できるよう、組織営業力の強化及びストック市場への取り組み強化策であるReReC[®]（Renewal, Renovation, Conversion）や非請負分野の開拓に向けた体制整備のほか、DXの推進による生産性の向上や人財育成の強化に努めております。

〔海外建設事業〕

フィリピン、ケニアを中心に地域に根差した事業展開を継続し、ODA案件の獲得及びフィリピン現地法人CCT CONSTRUCTORS CORPORATIONによる民間工事の拡大のほか、現地人財の育成に取り組み、収益基盤の構築に努めております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、887億64百万円となり、営業利益は41億90百万円、経常利益は36億68百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は21億79百万円となりました。

中期経営計画に掲げる大きな経営の転換を着実に実行・実現することで、2029年に迎える創立100周年に向けて、環境変化にフレキシブルに対応し、厳しい環境に自ら挑戦するレジリエント企業へと進化してまいりますので、皆様からのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長

大林東壽

2023年11月

★ TOYOトピックス

TLP方式による浮体式洋上風力発電の 国内初の実証実験を石狩湾沖で実施

今夏、当社はTLP（Tension Leg Platform『緊張係留』）方式による浮体式洋上風力発電の実証実験における「繰返し荷重を用いた杭の引抜き実験（国内初）」と、外洋船を用いた「大水深施工実験」を北海道石狩湾沖合にて実施いたしました。

これらの設計・施工に関する実験により、TLP型浮体の実現性が大きく前進するものと考えております。

日本周辺海域は、急峻な海底地形のため着床式よりも浮体式が適しており、また政府による排他的経済水域（EEZ）における洋上風力発電の実施に係る検討も進められていることから、今後浮体式洋上風力発電の大量導入が見込まれます。また一方で、洋上風力発電事業の実施にあたり、漁業者を含めた海域利用者との協調が重要となります。当社が進めているTLP浮体は、従来の浮体方式に比べて漁業や船舶航行などへの影響を1000分の1程度に大幅に低減することができ、優れた社会親和性が期待されます。

当社は洋上風力関連事業を「成長ドライバー」に掲げ、今後の主要事業とすべく様々な技術開発事業に参画し、本技術開発の社会実装による浮体式洋上風力発電の導入と、2050年カーボンニュートラルの実現に貢献してまいります。

【プレスリリース】



杭の引抜き実験の様子



大水深施工実験の様子

★ TOYOトピックス

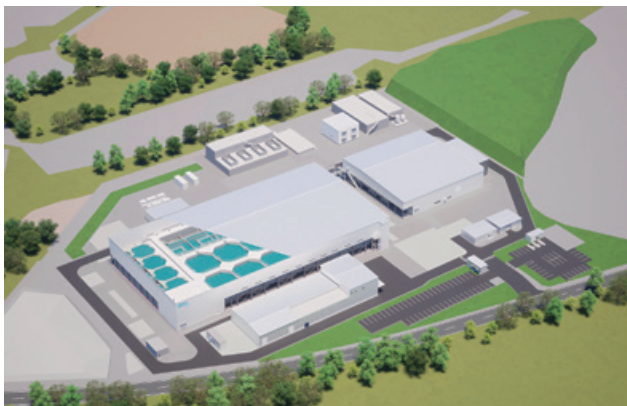
大型陸上養殖プラント施設を受注

当社は、株式会社FRDジャパン様より「(仮称) (株)FRDジャパン陸上養殖プラント (富津市) 建設工事」を受注いたしました。

FRDジャパン様はバクテリアを活用した閉鎖循環式陸上養殖システムにより、天然海水を使用せずに安定的に生産する技術を独自に開発されました。完成後は、年間3,500トン規模の養殖施設が誕生することになり、身近な食材であるサーモトラウトを輸入に頼らず国内で供給できる環境が整います。

当社はこれまでに注力してきた様々な食品工場、生産施設のノウハウを集結し、養殖プラント施設という新たな分野に取り組みます。今後世界的な食糧危機が懸念される中、このような社会的意義のある事業への参画は、当社の技術力とこれまでの真摯な対応によりお客様から信頼を得られたことで実現したものと考えています。

このような生産施設へのニーズは、より一層高まるものと予想されます。当社は今後もサステナブルな社会の実現に貢献するとともに、お客様にご満足いただける施工に努めてまいります。



完成予想パース

★ 2024年3月期第2四半期の連結業績概況

経営成績

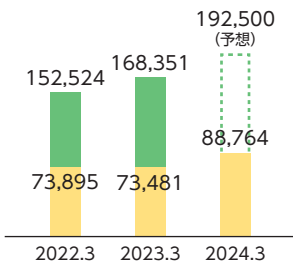
当社グループの経営成績の状況は以下のとおりです。

売上高

88,764百万円

(前年同期比 20.8%増)

■ 通期 ■ 第2四半期
(単位：百万円)

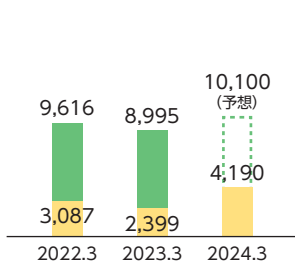


営業利益

4,190百万円

(前年同期比 74.6%増)

■ 通期 ■ 第2四半期
(単位：百万円)

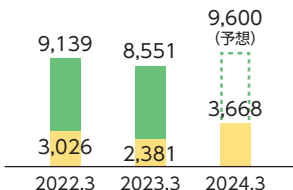


経常利益

3,668百万円

(前年同期比 54.1%増)

■ 通期 ■ 第2四半期
(単位：百万円)

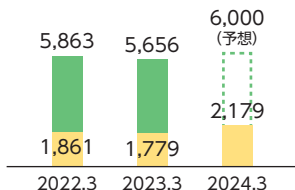


親会社株主に帰属する
四半期 (当期) 純利益

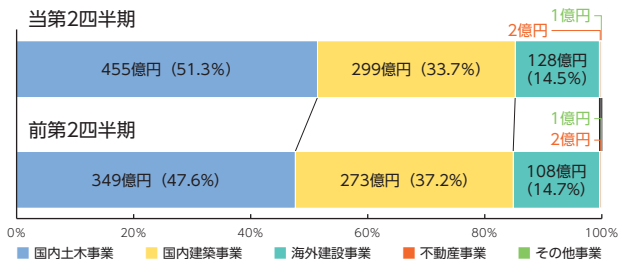
2,179百万円

(前年同期比 22.4%増)

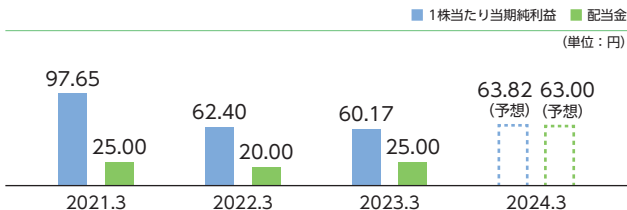
■ 通期 ■ 第2四半期
(単位：百万円)



セグメント別売上高



1株当たり当期純利益、年間配当金推移



★ 会社概要 (2023年9月30日現在)

社 名 東洋建設株式会社

英 文 名 TOYO CONSTRUCTION CO., LTD.

創 立 1929年7月3日

資 本 金 14,049,367,174円

営 業 種 目 土木建築工事の請負、建設コンサルタント、土地造成、地域・都市・海洋・資源エネルギー開発及び環境整備、公共施設の企画、管理運営、エネルギー供給に関する事業、不動産業、その他関連事業

従 業 員 数 1,681名 (連結)